

茶道部便り

発行

大妻女子大学
茶道部

1994年

12月11日

代表者

岩田美恵子
斉藤絵美子

大妻女子大学 茶道部

創立四十五周年を迎えて

本日はお忙しい中、雪待茶会へお越しいただきまして、誠にありがとうございます。本学茶道部も今年で四十五周年を迎えることとなり、私たち部員も伝統の重みをひしひしと感じております。部員数は近年と比べますと少なく、至らない点も多いとは思いますが、伝統を引き継ぎながらも私たちの部活をつくっていくと部員一同、活動しております。この記念紙を通し、自分たちの活動を見つめ直すとともに、今後もより一層努力を重ね稽古に励みたいと思っております。

一面には、本学学長先生、齋藤宗雅先生のお言葉を掲載しております。



大妻祭 添茶茶会にて



学長

中川 秀泰

大妻女子大学の創立と時を同じくしてスタートした大妻学院茶道部が四十五周年を迎えることとなった。まことに目出度いことである。

その間、柳沢信隆先生、齋藤宗雅先生ご指導の下、歴代の部長、副部長、部員ご一同の精進・努力によって、部活動が活発に近づけてきたことは、有り難く、ご同慶のいたりである。

私はかつて国際基督教大学に勤務していた頃、大学構内の日本庭園泰山荘内の三百年以上たった古いかやぶきの茶室で、裏千家の宗匠千宗室先生のお手前によるお茶席に何度か出たことがある。



齋藤 宗雅

大妻女子大学茶道部が創設されて今年で四十五周年を迎えましたことおめでとうございます。願ひますれば私が柳沢先生のお供をして一緒に茶

千先生は素人のわれわれにかたくくしくしないで、くつろいで自然体のままでいただくようにとささされたように記憶する。思うに、茶道の奥は深くそれをきわめるためには長い年月にわたって稽古をつむ必要がある。茶道部の皆さんが、若き日から、生涯にわたって稽古をつづけ、簡素静寂の境に達し、礼法を究められるように希望する。大妻学院茶道部のますますの発展を祈願します。

道部の指導を始めましたのが昭和五十年頃で、その頃は旧校舎の六階に広い和室の稽古場があり、廊下を隔てた向い側に茶室。大妻庵。がありました。靖国神社境内にありますが茶室。又隠席。を写して作られたもので、当時コンクリートの建物の上階に建てるのはスペースやいろいろの面で大変なことでしたと伺っております。それから新校舎の建設に併ないこの茶室はそっくり保管されました。そして平成二年に只今の新校舎の地下一階に木の香も新しい活動室や廊下をえて「大妻庵」は、以前のままの落付いた味わいを見せて再現したしたのでございます。約五百年の日本伝統の茶道を若い学生の皆様が熱心に修練に励む姿にこの上ないよろこびを感じております。いつも申しあげますようにお茶は決して窮屈でもややこしく難かしいものでもありません。

碗は二十個作られて何十年も経った今も部員の皆様が誇りを持ちつつ大切に使用しております。長年続いた鎌倉円覚寺塔頭雲頂庵に於ける夏季合宿は今年でとりやめることになりました。最近の諸事情で致し方ありません。来年から又新しい方向で大事な行事の一つとして続けてゆくことになると思っています。ご理解深い学長先生はじめ、諸先生方に支えられて安らぐ気持ちで指導にあたれますの感謝いたします。有難うございました。

「誰かになる」これは斉藤先生のお話の中でも特に印象に残っている言葉です。私達は日常生活において、他人が無意識に、あるいはあえて避けていることを自ら進んでしようとは思いませんし、率先する人がいてもその人に感心するか頼ってまかせてしまうだけで、行動に移せる人は少ないのではないのでしょうか。「自分のすぐ側にゴミが落ちていかに気付いて「誰かが拾ってくれよう。」と思ひ、次に見つけた人も同じことを考えていたなら、そのゴミはいつまでも落ちていて拾われずに落ちていくのでした。だから「誰か」がするのを待つのではない、みんながこの「誰か」

今年のように部員数が少ない中では、一人一人がやらなければならない役割を自覚し、また他の部員が困っているときには力を貸してあげなければなりません。茶道部とは、ただお茶の知識や美しい挙措動作が身につくだけでなく、団体行動を学べる場でもあるのです。気軽なサークル活動のさかんな今日、大学生活においてこのような団体行動の場をもてるという事は、とてもすばらしく貴重なことです。大学は自由が多いたったんだんとなく過こしてしまいがちですが、茶道部で得た様々なことは、近い将来社会人になっても必ず役に立つことでしょう。

一面に続きまして、日ごろお世話になっております顧問の石井とめ子先生と学生部長の緒方眞也先生、お二人の先生のお言葉を掲載しました。

また、部長・副部長、次期部長・副部長からの挨拶、簡単ではございますが茶道部の歩みなども掲載しました。

和敬 清寂

お茶の心

「和敬静寂」 とは？

千利休がお茶の根本理念としたのが、この「和敬静寂」です。利休は四規といい、わび茶はこの理念の上に成り立っています。

和敬とは、人間同士はもちろん、自然界すべてのものに対する思いやりと尊敬を意味します。静寂とは、文字どおり清らかな心、澄みきった心のことです。

生あるものは必ず滅びるといふ宿命をもった人間の極致が、この「和敬静寂」といふ理念に表れています。

顧問

石井とめ子

大妻女子大学茶道部の顧問を先代の府川俊枝先生より受け継いでから、早いもので今年八年目を迎えました。過年、茶道部の創立四十周年を機に、部の歴史を記録すべく「茶道部だより」の発行を提案したところ、部員の皆さまの賛同を得て創刊号が刊行された訳ですが、当時、創立時のご指導を賜った柳澤信隆先生がご存命でいらしたので、茶道部の全貌をすることが幸運にも叶いました。それから五年を経て、今年四十五周年を迎え、お茶室もC棟地下に完成しましたので、この機会に創立時からの会員名簿



の整理をすることにしましたが、幸い、初代顧問をしてもらった久保まする先生の助手、山口恭子（旧姓 伊藤）さんとの連絡が叶い、空白期の名簿を充足することが可能になりました。今後、五十周年に向けての資料作りにも好結果をもたらすこととしましょう。

また、大妻庵のアトリウムに接した一角に復元され、部の精神修練の場として継続できたことは喜びにたえません。四畳

学生部長

緒方眞也

大妻学院の茶道部が柳澤信隆先生によって興えられたから四十五周年を迎えられたことは本当におめでとうございます。お聞きするところによると、「茶室」など思いも及ばぬジュウタンから出発し、大変なご苦労がございましたと存じます。そして斎藤宗雅先生にその伝統を受け継がれ、脈々と今日まで発展してこられたことは、このお二方の先



生のご人徳と、守り育てて来た先輩達のご努力のお蔭と感謝をこめて心から嬉しく祝福申し上げます。思えば私も学生部長を拝命してから十五年になりますが、その間に大妻学院八十周年記念行事の一環として千代田校地の再開発という大事業があり、建築委員会がつくられて六階のお茶室を解体し、新校舎に再現すべく大切に保存するよう建築関係の方々と相談したことを昨日のことのように思い出しております。

さて、教育の中で身近で大切なものに社会教育があります。その教育とは年令とか性別に関係なく、生まれてから死ぬまで自分自身を育てて行く

半の小間という小さな空間をかいして、心の和合をとりむすぶ絆となることとしましょう。

私も和敬静寂のことで一服のお茶は、煩瑣な生活を忘れて、心がなごみ、自己の精神衛生的にもコントロールできますので、茶会の折にご相伴にあずかっております。最後に茶道部の益々のご発展を望む次第です。



茶道部の歩み

昭和二十四年、大妻女子大学に柳澤宗淵先生により茶道部が創立されました。

充分な施設がない頃の活動は恐らく不自由もあつたことと思います。こうした年月を経て、今では立派な茶室や和室で私達は稽古をすることができま

三十五年には記念茶室、四十周年には「茶道部だより」を創刊しました。多くの方々に支えられて茶道部は今年創立四十五周年を迎えることができ、その活動はこれからも発展し、続いてゆくこととしましょう。

- ### 〈茶道部の沿革〉
- 1949年 柳澤信隆(宗淵)先生により、茶道部創立される。
 - 1971年 茶室「大妻庵」が誕生
 - 1979年 柳澤先生が隠退され、斎藤宗雅先生が後を受け継がれる。
 - 1984年 創立35周年記念茶会を催す。
 - 1989年 創立40周年記念、記念新聞「茶道部だより」を創刊。
 - 1990年 校舎改築によりC棟地下1階に大妻庵が復元、完成。
 - 1994年 創立45周年を迎え、現在に至る。

生涯教育と言えます。つまり、社会教育は或る意味では精神教育でもあり、江戸時代の「遊芸」―茶の湯、生花、琴、三味線、小唄、長唄など芸事教育は、芸を修得するという行為を通して、社会生活を円滑にしていく技術と精神の学でもあったわけ

です。そもそも、茶の湯の抹茶は室町時代に懐石料理作法、建築、器物、書画、文学などを総合した芸能としての茶道を作り上げて来たと言います。故に、茶道の目的には、二つに礼儀作法を学ぶ、二つに静かな安定した心を修得する、三つめは教養を身につける事ではないかと思えます。そのような茶道を私はこよなく敬

ひとこと

部長

岩田美恵子

九月に部長に選ばれてから十六カ月がたち、この雪待茶会で引退となりました。思えば本当にたくさんの貴重な体験をし、自分なりに大きく成長しました。また少ない部員数ではありますが皆で協力し合い日々稽古に励んでいきます。これからも伝統に継ることなく、よりよい部へ

副部長

斎藤絵美子

今年も雪待茶会の季節となり大学の茶道部の活動も終りに近づいてきました。あつという間に月日がたつてしまったと感ぜると同時に茶道部で学んだ多くの事は自分を成長させてゆく糧となつたと思えます。四十五年の歴史の中で積み重ねられてきたものを大切にして、これから有意義な活動をして欲しいと思っております。最後にお世話になりました戸澤彩です。

次期部長

鈴木かおり

来年度より部長を務めさせていただきます鈴木かおりです。入部してから早くも半年がたち、その間の夏合宿や添釜茶会、そして普段の稽古において多くの事を学んできました。二年間という大変短い期間ではありますが、茶道を通じて精神的に大きく、かつ強くなれるよう真剣に取り組んでいこうと思っております。どうぞ皆様のご指導、お力添えの程よろしくお願致します。

次期副部長

飯島久美子

私が茶道部に入部してから今までに行われた行事では、茶道未経験者の私にとって新しく学ぶことばかりでした。この後に行われる行事で先生や先輩方に新たに教わるであろう事も含めて、来年の活動に生かせるよう、又四十五年という長い歴史をもつ茶道部の伝統を伝えていけるよう、微力ながら努力してゆきたいと思っております。